

昭和三十六年一月二十日 「講演感想記」

「日本の経済について」

瀬川美能留先生は、前川理事長の依頼で御忙しい中を塾生のために一席の御講演をお引受け下さったのである。先ず戦後の日本経済が如何に伸びているかを、先生の友人で日英協会の会長であるジョージ・セイという人の所感から述べられたのである。先生が学校卒業後三十五年間証券界に活躍せられた経験から、一英国人であるこのジョージ氏の言葉を引いて、我々日本人がどういう物の考え方をし、またどのような経済の発展を見るべきかを述べられた。

敗戦直後の日本経済の生産力は戦前の二割にすぎなかったが、十五年後の現在では戦前の水準を突破して世界第四位の工業国にまで発展した。例えば生産高で一九五五年を百とするると一九五九年には百九十三という驚異的な成長を示しておる、成長率でみても五九年は一七%、六〇年は一一%、六一年以後は九%を目標としておる。一九五九年から六〇年にかけての成長率は世界でも類がないのである。例を挙げれば造船高においては世界の第一位に、商部門の貿易額でも日本商社が一、二位を占めて

いる。また他の一面から見れば戦前の日本製品は他国のイミテーションが多く、安かろう悪かろうの生産国であったが、今日では全く事情は一変して、多くの分野に独創的なアイデアが生かされ、高度な精密機械、特にカメラ、トランジスタ・ラジオ等の分野では世界をリードしておると。誠に心強いお話を聞いたのである。しかもこれが日本人の手前味噌でなく、英国の専門家の言葉であって見れば、今更ら私達の心を打ったのである。

先生は戦後日本経済のこの発展には日本人特有の勤勉さと労働意欲による以外に、次の条件によると述べられたのである。

第一にアメリカの好意的な援助と寛容な処置、第二に最近まで日本の軍事費がゼロに近かったこと、第三に台湾、朝鮮、満州への投資その他の負担がなくなったこと、第四に驚異的な米の豊作にある。今や貿易の自由化に踏み切った日本は、これからが世界舞台での活躍であると激励せられたのであった。

先生は幼にして弁護士を志されたり、教育者

であった厳父の勧めで一時は師範学校の試験も受けられ入学も許可されながら、それが補欠入学であることを潔よしとせずして之を拒否し、そのあと紆余曲折があつて学校を卒業して職を選ぶこととなったのである。

学閥や門閥に左右されない、しかも将来に発展する仕事と求めて、野村証券を選ばれたのである。今や社長として社員に対してよく「天下人となれ」と話しておられるとのことだ。

先生には最初の十年間たまつて働こうという休業時代があり、次の十年間は活躍の期間であつて、その頃は仕事の割に月給の不足も感じられたとのこと。更に次の十年間は以上の基礎の上に立った、自分を自覚して次の準備をする期間であつた、と。

最近先生に対して「君は五十五歳までは会社のことに専念するもよいが、それを過ぎたら業界のこと、国のことを考えよ」と忠告した友人があつたとの話である。

斯くて先生は現在の青年に対して、視野を大きく、世界的なれ、と述べられ、国と国とが競

野村證券社長 瀬川美能留先生

争して行く帝国主義は過去の遺物であるから、
インターナショナルな世界、世界が一つになっ
てゆく時代に順応することを心懸けよと、主張
せられたのである。

(塾理事 望月勲造)

※当DVD収録の講演録には、現在では不適切と思われる表現が
用いられている場合がございますが、講演時の時代背景等を尊重し、
当時のままといたしました。